

安全データシート

改訂日：2025 年 10 月 22 日

作成日：2019 年 5 月 29 日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	： SR テックス E
供給者の会社名称、住所及び電話番号	： 静岡瀝青工業株式会社 静岡県焼津市高新田 810 番地 TEL:054-622-1255
供給者のファクシミリ番号又は電子メールアドレス	： FAX：054-622-6457
緊急連絡電話番号	： TEL：054-622-1255／受付時間：月～金曜日 8:00-17:00
推奨用途	： 土木用資材、建築用資材、梱包用資材、防水材、断熱資材
整理番号	： D-G21-313501

2. 危険有害性の要約

本製品は混合固形物（板状）であり常温以外での使用、保管はないが含有するアスファルトについて常温時の危険有害性を明記する。

化学品の GHS 分類

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	： 区分外
生殖細胞変異原性	： 区分外
発がん性	： 区分外
特定標的臓器毒性、単回ばく露	： 分類できない
特定標的臓器毒性、反復ばく露	： 分類できない

区分に該当する物理化学的危険性はなし

GHS ラベル要素

絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	着火源があれば燃える。 火災時に発生するガスは、目、呼吸器を刺激する。 通常な状態では危険な反応や火災爆発を起こすことはない。 通常な状態では特に有害性はない。 通常な状態では環境を汚染することはない。

注意書き

- 【安全対策】 ・ 火災によりガスが発生した場合は吸入を避ける事。
- 【応急措置】 ・ 気分の悪化、目の刺激が継続する場合には医師の診断、手当てを受ける事。
- 【保管】 ・ 直射日光、雨水を避け、火気のない屋内等での保管を行う。
- 【廃棄】 ・ 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	木質植物性繊維、特殊アスファルト、ストレートアスファルト混合物

成分	含有量(%)	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
木質植物性繊維	65%以下	—	—	—
アスファルト	35%以上	8052-42-4	9-1720	12-189

4. 応急措置

- | | |
|---------------------|---|
| 吸入した場合 | ・ 焼却した場合に発生する煙を大量に吸入した場合は新鮮な空気のある場所に移ること。 |
| 皮膚に付着した場合 | ・ 刺激があれば石鹸で洗う。 |
| 眼に入った場合 | ・ 危険な物質ではないが、眼球を傷つける可能性があるので、清浄水で洗い流す。 |
| 飲み込んだ場合 | ・ 危険な物質ではないが、出来るだけ吐き出し、異常を感じるようであれば医師の診断を受ける。 |
| 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 | ・ 特になし |
| 医師に対する特別な注意事項 | ・ 特になし。 |

5. 火災時の措置

- | | |
|-----------------------|--|
| 適切な消火剤 | ・ 水、泡沫消火器、粉末消火剤等を用いることが出来るが、冷却効果が大きい水を使用することが望ましい。 |
| 使ってはならない消火剤 | ・ 特になし。 |
| 火災時の特有の危険有害性 | ・ 現在のところ有用な情報なし。 |
| 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 | ・ 消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用する。 |

6. 漏出時の措置

- | | |
|-----------------------|------------------------------------|
| 人体に対する注意事項，保護具及び緊急時措置 | ・ 漏出の可能性がないため、特になし。 |
| 環境に対する注意事項 | ・ 漏出の可能性がないため、特になし。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | ・ 漏出の可能性はないが、切れ端などは適切な袋などの容器に回収する。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

- | | |
|----------|---|
| 取扱い | |
| 技術的対策 | ・ 常温では引火の恐れはないが、作業場では火気をみだりに使用することを避け、整理整頓に努める。 |
| 注意事項 | ・ 固形、板状の製品なので打撲、腰痛を防ぐために落下させたり、無理な持ち上げ動作をしない。 |
| 保管 | |
| 適切な技術的対策 | ・ 直射日光の当たらない冷暗所に保管する。 |
| | ・ 火気、熱源から遠ざけて保管する。 |
| 注意事項 | ・ 製品を段積みする場合は荷崩れに注意する。 |

8. ばく露防止及び保護措置

- | | |
|------|------------------------------|
| 設備対策 | ・ 特になし。 |
| 保護具 | ・ 必要に応じて、軍手、防塵マスク、保護眼鏡を着用する。 |

9. 物理的及び化学的性質

【製品中のアスファルトに関して】

物理状態	固体
色	黒色
臭い	データなし
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に不溶、溶剤に一部可溶
n-オクタノール／水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	0.55
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

- | | |
|------------|-------------------------|
| 反応性 | ・ 一般的な貯蔵、取扱いにおいて反応性はない。 |
| 化学的安定性 | ・ 一般的な貯蔵、取扱いにおいて安定。 |
| 危険有害反応可能性 | ・ 情報なし。 |
| 混触危険物質 | ・ 特になし。 |
| 危険有害な分解生成物 | ・ 情報なし。 |

11. 有害性情報

- | | |
|------------------|---------|
| 急性毒性 | ・ 情報なし。 |
| 皮膚腐食性／皮膚刺激性 | ・ 情報なし。 |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | ・ 情報なし。 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | ・ 情報なし。 |
| 生殖細胞変異原性 | ・ 情報なし。 |
| 発がん性 | ・ 情報なし。 |
| 生殖毒性 | ・ 情報なし。 |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | ・ 情報なし。 |

- | | |
|-----------------|--|
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | ・ 情報なし。 |
| 誤えん有害性 | ・ 情報なし。 |
| その他 | ・ 火災発生時に密閉空間で発生するガスを吸引すると嘔吐及びめまいを起こすことがある。 |

12. 環境影響情報

- | | |
|----------------|---|
| 生態毒性 | |
| 水生環境有害性(短期/急性) | ・ 有用な情報がないため「分類できない」 |
| 水生環境有害性(長期/慢性) | ・ 有用な情報がないため「分類できない」 |
| 残留性・分解性 | ・ 主要成分のアスファルトは生分解性がないことが特徴である。 ^{a)} |
| 生体蓄積性 | ・ きわめて水に難解であり、水中生物の体内に蓄積されることは考察しにくい。 ^{a)} |
| 土壤中の移動性 | ・ 土壤中では移動性はない ^{a)} 。 |
| オゾン層への有害性 | ・ 情報なし |

13. 廃棄上の注意

やむを得ず廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。
焼却するときは焼却設備を用い、大気汚染防止条例等の諸法令に適合した処理をする。

14. 輸送上の注意

- | | |
|---------------------|--|
| 国内規制 | |
| 陸上 | ・ 該当しない |
| 海上 | ・ 該当しない |
| 航空 | ・ 該当しない |
| 国際規制 | |
| 海上 | ・ 該当しない |
| 航空 | ・ 該当しない |
| 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 | ・ 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。
・ 取り扱い及び保管上の注意の項の記載事項に従うこと
・ 火気、高温度の物体を避ける |

15. 適用法令

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 労働安全衛生法 | ・ 製品中のアスファルトは表示対象物（0.1 重量%以上） |
| PRTR 法 | ・ 非該当 |
| 毒物及び劇物取締法 | ・ 対象物でない |
| 消防法 | ・ 非該当。 |
| 水質汚濁防止法 | ・ 非該当 |
| 水道法 | ・ 非該当 |
| 下水道法 | ・ 非該当 |
| 海洋汚染防止法 | ・ 非該当 |
| 廃棄物の処理及び清掃に関 | ・ 廃棄される場合に適用（建設系産業廃棄物 繊維くず） |

する法律

16. その他の情報

本製品は常温状態で取り扱うものであるが、本製品に含有しているストレートアスファルトは取扱いの温度により危険有害性が著しく異なるため、一部の条件による危険有害性を明記した。

【引用文献】

a) CONCAWE report no.01/54 environmental classification of petroleum substances -summary data and rationale

安全データシート（SDS）は危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱事業者提供されるものです。取扱事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って、本データシートそのものは安全の保証書ではありません。また本データシートは JIS Z 7252:2019 及び JIS Z 7253:2019 に沿って得られた情報を基に作成したものであり、その内容やデータについて弊社製品そのものを反映しているわけではなく、すべてを保証するものでもありません。各種法令改正や製品情報の改定により今後も内容が変更されますので、販売・流通事業者は取扱事業者に対し、常に最新の安全データシートを提供するようにお願いします。